

平成29年度

高齢者ケア施設で働く看護職の実態調査

報告書

平成30年3月

公益社団法人 岡山県看護協会

看護師職能委員会

I 調査の概要

I 調査の概要

岡山県看護協会 看護師職能委員会は、看護職の現状を把握し、課題を発見するための活動を行っている。看護職の働く場所が多様となり、特に高齢者ケア施設で働く看護職の確保・定着は厳しくなっている。

岡山県看護協会では、平成 28 年度岡山県に対し、「介護老人保健施設への看護職の就業支援」を要望した。また、施設看護職の就業支援への取り組みや、施設看護職を対象とした研修を看護研修センター等で行ってきた。平成 29 年度も引き続き岡山県看護協会重点事業方針に「在宅・介護領域の人材育成」「プラチナナース等の活用による在宅領域への供給強化」を掲げ、日本看護協会とも連携を図りながら就業支援や人材育成のための研修を続けている。

岡山県内の高齢者ケア施設の実態調査は平成 25 年度にも実施しているが、回答者の勤務場所に併設病院等も含まれ、介護老人福祉施設の回答者数を上回っていた。その為今回は、高齢者ケア施設の特徴をより明確に実態把握する為、調査対象施設を介護老人福祉施設と介護老人保健施設に絞り実施した。

これらの結果は、就業支援や必要な研修企画、および岡山県への要望事項に反映し、施設で働く看護職の確保と看護の質向上に繋げていきたい。

1 調査の概要

1) 調査目的

高齢者ケア施設で働く看護職の実態を把握し、就業支援や必要な研修企画、および岡山県への要望事項に反映する。

2) 実施概要

(1) 調査対象

岡山県内の「みんなの介護」に掲載されている、介護老人福祉施設（以下特養と記す）（平成 29 年 4 月 16 日現在 137 施設）、介護老人保健施設（以下老健と記す）（平成 29 年 1 月 28 日現在 82 施設）の合計 219 施設で働く看護職。看護協会会員・非会員は問わない。

1 施設あたり人員基準の看護配置数により特養からは各施設 1 人で計 137 人、老健からは各施設 2 人で計 164 人を各施設で選んでいただき、合計 301 人に回答を求めた。

(2) 調査方法

郵送により、各施設の看護代表者へ依頼状、調査用紙、個別の返信用封筒を配布、個別返信封筒により解答用紙を回収した。

(3) 調査期間

平成 29 年 5 月 20 日～平成 29 年 6 月 20 日（回答は平成 29 年 6 月 1 日現在で求めた）

※集計は、6 月 30 日到着分までを対象とした。

(4) 調査項目

属性・労働環境・業務内容・研修環境の 4 カテゴリーについて、属性 8 項目、労働環境 13 項目、業務内容 4 項目、研修環境 3 項目の合計 28 の質問項目を設定した。

(5) 分析方法

単純集計、クロス集計

4) 倫理的配慮

調査対象者には、調査目的を説明し、調査表は無記名であり施設名・個人を特定されないこと、調査用紙は厳重に保管し、単純集計後は廃棄すること、返信を持って調査協力に同意が得られたとする。また、調査結果は、「高齢者ケア施設で働く看護職の交流集会」、岡山県看護学会等および岡山県看護協会ホームページに掲載し報告することの説明を文書で行った。

なお、この調査を行うにあたっては、岡山県看護協会理事会で承認を受けた。

2 調査結果の概要

回収結果

回収 198 人 (回収率 65.8%) 特養 74 人 (37.4%) 老健 121 人 (61.1%)

1) 対象者の属性 (問 1、問 3、問 4、問 5、問 7、問 8)

年齢は、40 代 32.3%、50 代 43.9%で全体の 76.2%を占めていた。20 代から 30 代は 12.1%で、60 代から 70 代は 11.1%であった (図表 1-1)。

雇用契約資格は、看護師 73.7%、准看護師 25.3%で看護師が多かった (図表 1-3)。保持資格 (複数回答) は、介護支援専門員が 25.8%、保健師 3.0%、認知症ケア専門士 3.0%等であった (図表 1-4)。

看護職としての経験年数は、21 年以上が 62.6%を占めていた (図表 1-5)。現在働いている施設での経験年数は 0~5 年が最も多く 40.9%であったが、21 年以上と勤続が長い人は 4.5%いた (図表 1-6)。

これまでに勤務したことがある施設 (複数回答) は、「医療機関 (急性期)」が 64.6%、「医療機関 (慢性期)」が 63.6%、「医療機関 (診療所・クリニック)」が 41.4%と、医療機関の経験がある人が多かった (図表 1-7)。

現在の職場に勤務する直前に看護職として働いていない期間があるのは、41.9%の人で (図表 1-8)、その期間は、2 ヶ月から 24 年 1 ヶ月であった。働いていない期間がある 198 人中 83 人・41.9%のうち 33.7%の人は 1 年以内に再就職をしていた (図表 1-9)。

現在の施設に入職したきっかけ (複数回答) は、「知人・友人の紹介」が 39.9%で一番多く、次いで「家から近い」が 37.4%であった。「ナースセンターを介して」は 6.6%で「ハローワークを介して」の 16.2%より少なかった (図表 1-11)。

回答者の現在の職位については、「管理職」と回答したのは 21.7%、「中間管理職」と回答したのは 27.3%、「看護スタッフ」と回答したのは 50.0%であった。具体的な職名については、特養の管理職は施設次長・副施設長・看護部長・医務室長等であった。中間管理職は主任・リーダーが多かった。老健の管理職は看護部長・看護師長・看護課長が多く、中間管理職は主任・看護主任が多かった。

准看護師で管理職と回答したのは、管理職と回答した 43 人のうち 7.0%を占め、中間管理職は、中間管理職と回答した 54 人のうち 22.2%を占めていた (図表 1-12)。

リーダーシップや管理に関する長期研修等「受けていない」と回答したのは 47.5%であった (図表 1-13)。

2) 労働環境 (問 9、問 10、問 11、問 12、問 13、問 14、問 16、問 17、問 18、問 19、問 20)

雇用形態は、正職員が 93.9%を占めていた (図表 2-1)。

勤務している時間帯は (複数回答)、「夜勤交代制」32.3%、「早出」34.3%、「遅出」32.3%と変則

勤務もしていた。「夜勤交代制」の内訳は二交替が 57.8%であった。「日勤」と回答した 93.4% (図表 2-2) のうち、「日勤」だけの勤務をしているのは、全体の 34.3%で、月曜日から金曜日の日勤のみ勤務していると回答したのは、全体の 3.5%であった。「日曜出勤」は 78.3%、「祝日出勤」は、76.8%の人がしていた (図表 2-3)。

「夜勤をしている」と回答した 65 人・32.8% (図表 2-4) の月平均夜勤回数は (二交代は 2 回で計算)、6~8 回が 29.2%、3~5 回が 27.7%と多かった。16~19 回と回答した人は 4.6%いた (図表 2-5)。1 回の夜勤手当は、二交代 (当直記載も含む) が 5,000~18,000 円で平均 9,458 円であった。

「オンコール待機をしている」と回答した 92 人・46.5% (図表 2-6) の月平均待機回数は、6~10 回が 41.3%と一番多いが、16~22 回が 6.5%、毎日が 4.3%であった (図表 2-7)。1 回あたりの手当は、200~2,000 円で、手当の支給の平均は 1,025 円であった。0 円もしくは、なしと回答した人は 25.0%であった。月額での支給は、2,000~15,000 円で、平均 6,284 円であった。

給与は仕事内容に見合っているかの問いには、「十分もらっている」8.1%、「こんなものと思う」50.8%、「少ないと思う」36.0%であった。少ないと思う 71 人・36.0%の理由は、自由記載で「医師不在の施設で病院よりストレスがある」「病院より基本給低い」「併設病院と基本給や手当に差がある」等であった。(図表 2-8)。

1 施設あたりの看護職員数は、1~23 人で、平均 8.3 人であった。うち 1~4 人と回答したのは 28 人・14.1%いた (図表 2-10)。勤務している施設の看護職員数について、「足りている」と回答したのは 15.2%、「不足している」は 61.6%、「どちらともいえない」は 19.2%であった。不足と感じる理由は、自由記載で聞いた (図表 2-11)。

新規採用者数と離職者数の比較で、離職者数より採用者数が多いと回答したのは 64 人、少ないと回答したのは 33 人であった (図表 2-12)。

時間外労働「あり」と回答したのは 165 人・83.3% (図表 2-13) で、うち過去 1 年間の 1 ヶ月あたりの平均は 5 時間未満が 56.4%と最も多かったが、20 時間以上が 4.2%いた (図表 2-14)。「時間外労働あり」と回答した 165 人・83.3%の時間外手当の支給は「すべて支給される」53.3%、「ほとんど支給されない」19.4%であった (図表 2-15)。

平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月の 1 年間の有給取得日数は、1~5 日 33.3%、6~10 日 30.8%、0 日 8.6%であった (図表 2-16)。

3) 業務内容について (問 22、問 23、問 24、問 25)

通常行っている業務(複数回答)は、多いものから「医師との連絡・相談」94.4%、「病状観察・アセスメント」93.9%、「バイタルサインの測定」93.4%、「創処置」92.9%、「記録」92.4%、「与薬」91.9%、「経管栄養管理」90.4%であった。その他医療的ケアで、「ストーマ」46.0%、「膀胱(腎)ろう」17.2%、「気管切開管理」10.6%、「中心静脈栄養の管理」3.5%があった。「看取り」は 71.2%の人が行っていた (図表 3-1)。

現在の業務で不安を感じるものがあるかの問いには、83.3%の人が「はい」と回答している (図表 3-2)。「はい」と回答した 165 人・83.3%の不安を感じる業務内容は、多いものから「急変時の対応」41.8%、「職場の人間関係」38.8%、「医師との連携」34.5%、「介護職への指導」33.3%、「看護職員配置数」32.1%、「感染対策」32.1%となっている。また、多くの看護職が日常的に行っている「看護技術への不安」は 24.8%、「病状観察・アセスメントへの不安」は 19.4%が感じていた (図表 3-3)。

医療行為の具体的不安記載では、「男性の尿道カテーテル交換」「軽い皮膚異常のケア」「新しい治療がわかりにくい」等があった。

労働環境に対する具体的不安記載では、「看護師の高齢化」「後進がない」「定年が近い看護師が

大半」等があった。

その他具体的不安については、自由記載で聞いた。

看取りに関して、平成 28 年 4 月から 12 月までの期間に施設内で死亡した入居者が「いた」と回答したのは 77.3%であった（図表 3-4）。

4) 研修環境について（問 26、問 27、問 28）

施設の教育体制について「整っている」と回答したのは 51.5%、「整っていない」は 42.4%であった（図表 4-1）。業務基準・手順、マニュアルなどが「整備されている」と回答したのは 69.1%であった（図表 4-2）。

平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月の期間に、看護職員対象の施設外研修へ参加したのは 47.0%であった（図表 4-3）。参加が「ない」と回答した 100 人・50.5%の参加できなかった理由は、「看護職が少なく参加できない」49.0%、「仕事が忙しく参加できない」44.0%、「施設看護師対象の研修がない」23.0%であった。また、「研修の情報が入らない」は 23.0%であったが、看護協会会員か非会員かは明確でない（図表 4-4）。

3 考察

回答者の年齢は、40 代・50 代のベテランが多く、若い看護職が少なかった。また、労働環境の不安として「看護師の高齢化・後進がない」「定年が近い看護師が大半」と言う記載もある。このことから、介護領域の人材確保において、若い看護職に高齢者ケアの魅力や施設看護のやりがいを伝えることと、年齢の高い看護職の働き方の支援が必要と考えられる。

入職理由は、「知人・友人の紹介」「家から近い」と言う理由が多く、職員のネットワークの活用が確保・定着の重要な鍵となる。ナースセンターよりハローワークを介して入職が多いことから、看護職の就業支援として、ナースセンターの広報活動に期待する。

看護管理者は、施設ケアの質向上と労働環境の整備において、果たす役割が大きい。しかし、管理職や中間管理職であると回答した人で、管理に関する研修を受けている人は少ない。したがって、体系的な管理者研修が必要であると考えられる。

労働環境や賃金に関しては、「看護職員数が不足している」「病院より基本給低い」「併設病院と基本給や手当に差がある」等課題が多く、岡山県看護協会社会経済委員会や日本看護協会と連携を取りながら推移を見守る必要があると考えられる。

業務内容について約 2 割の人は、「看護技術」、「病状観察・アセスメント」に不安を感じている。病院では、常時医師や多くの看護職がおり相談できる体制にあるが、看護職が少ない施設では一人で看護判断を行い、「医師への連絡」、「介護職指導」をしなければならない。その為に、看護技術や病状観察・アセスメントの不安が、急変時の対応、医師との連携、介護職への指導や看護職員配置数の不安へと繋がっていると考えられる。

平成 25 年度、岡山県看護協会看護師職能委員会が行った「高齢者ケア施設で働く看護職の実態調査」の研修環境については、「施設看護師対象の研修がない」、「研修の情報が入らない」から研修参加ができないという課題が出ていた。その点に関しては、今回の調査では減少しているが、「仕事が忙しい」、「看護職が少ない」という点は改善できておらず、研修方法の検討が急務である。

4 まとめ

高齢者ケア施設においては、定年後の再就職者を含む年齢の高いベテラン看護職だけでなく、若い看護職にも高齢者ケアや施設看護の魅力を伝え、将来にわたり安定的に人材確保の必要がある。

今後は、日本看護協会が平成28年度・29年度と取り組んでいる「介護施設における看護管理者育成策に関する検討」を参考に系統的な管理者研修を行うことにより、看護マネジメント能力の向上が望まれる。また、若い看護職の育成研修を含め、研修内容や方法の検討を行い、看護判断や医療行為の研修を受講しやすくすることで、業務不安を取り除く必要がある。

これらのことは、岡山県看護協会事業や岡山県への要望事項に反映させていきたい。

5 本調査の限界について

本調査は、調査対象者の人数を限ったことから、全看護職員の実態把握には至っておらず、一定の限界があった。

II 調査結果

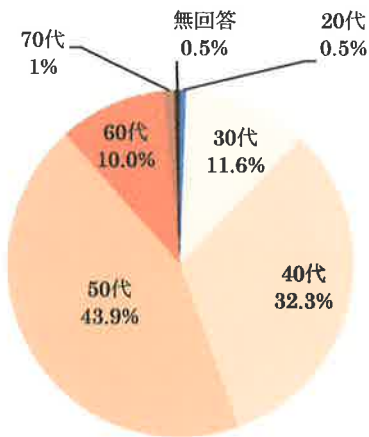
II 調査結果

1 回答者の属性

1) 年齢

回答者の年齢は、「50代」が最も多く43.9%で、次いで「40代」が32.3%であった。

図表 1-1 年齢 (n = 198)

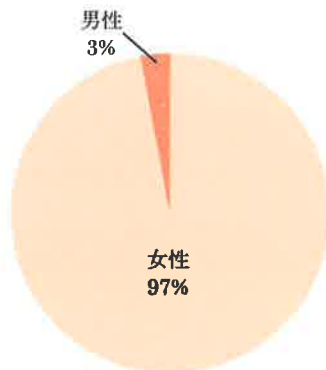


年齢	人数 (人)	割合 (%)
20代	1	0.5
30代	23	11.6
40代	64	32.3
50代	87	43.9
60代	20	10.0
70代	2	1.0
無回答	1	0.5

2) 性別

回答者の性別は、「女性」が97.0%、「男性」が3.0%であった。

図表 1-2 性別 (n = 198)

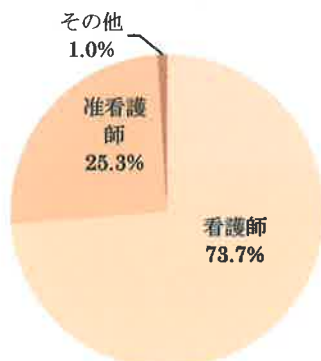


性別	人数 (人)	割合 (%)
女性	192	97.0
男性	6	3.0

3) 雇用契約の資格

回答者の雇用契約の資格は、「看護師」73.7%、「准看護師」25.3%、「その他」1.0%であった。

図表 1-3 雇用契約の資格 (n = 198)



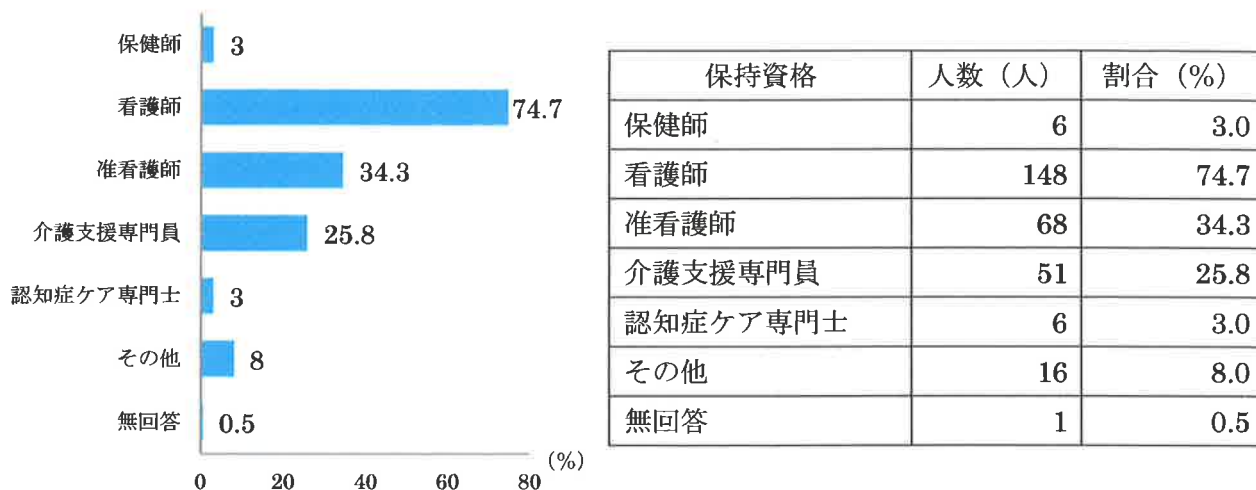
資格	人数 (人)	割合 (%)
看護師	146	73.7
准看護師	50	25.3
その他	2	1.0

※その他は、介護支援専門員・機能訓練指導員と記載があった。

4) 持っている資格の全て（複数回答）

回答者の保持資格は、「看護師」74.7%、「准看護師」34.3%、「介護支援専門員」25.8%であった。

図表 1-4 保持資格（複数回答）（n=198）



※その他は、衛生管理者、介護福祉士、養護教諭、精神保健福祉士等であった。

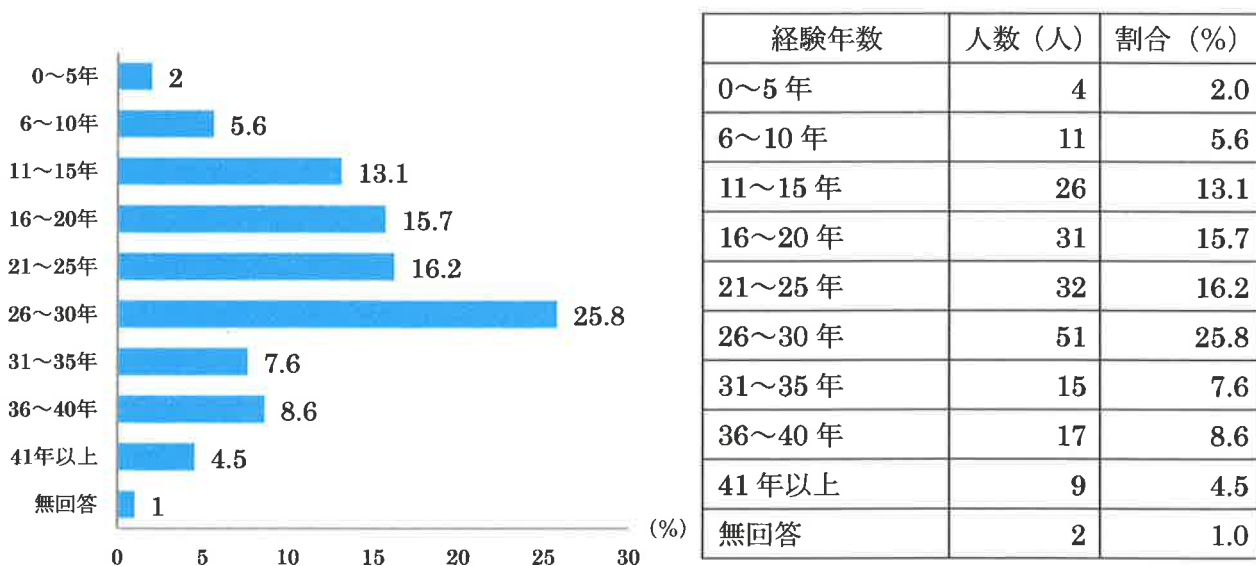
助産師、認定看護師・専門看護師の資格をもっているとの回答者はいなかった。

5) 看護職としての経験年数

回答者の看護職としての経験年数は、「26～30年」が25.8%と最も多く、次いで「21～25年」が16.2%であった。

4年（看護師）から50年（准看護師）の幅があり、21年以上の経験は62.6%であった。

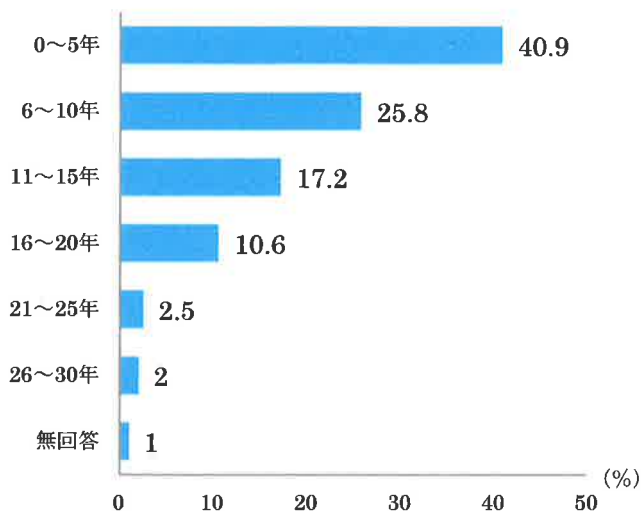
図表 1-5 看護職としての経験年数（n=198）



6) 現在働いている施設での経験年数

現施設での経験年数は、「0～5年」が40.9%と最も多く、次いで「6～10年」が25.8%であった。最短は2ヶ月、最長は30年8ヶ月でいずれも看護師であった。

図表 1-6 現在の施設での経験年数 (n = 198)

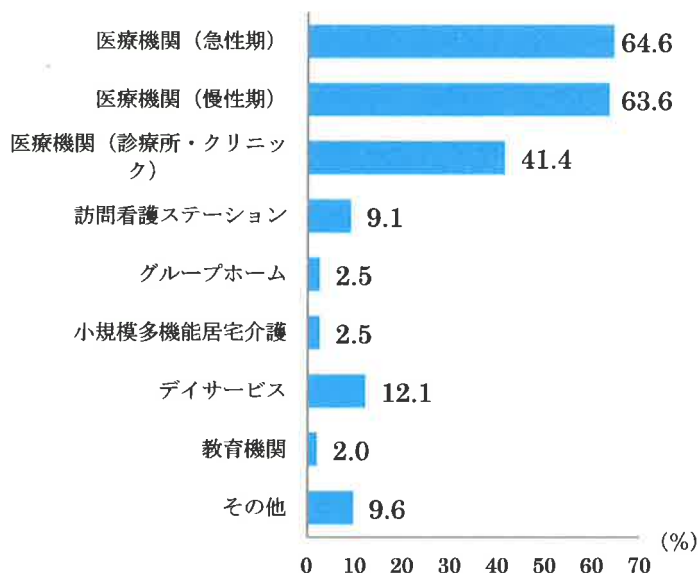


経験年数	人数 (人)	割合 (%)
0～5年	81	40.9
6～10年	51	25.8
11～15年	34	17.2
16～20年	21	10.6
21～25年	5	2.5
26～30年	4	2.0
無回答	2	1.0

7) これまでに看護職として勤務したことがある施設 (複数回答)

回答者がこれまでに勤務したことがある施設は、「医療機関 (急性期)」64.6%、「医療機関 (慢性期)」63.6%、「医療機関 (診療所・クリニック)」41.4%と医療機関を経験している人が多かった。

図表 1-7 これまでに勤務したことがある施設全て (複数回答) (n = 198)



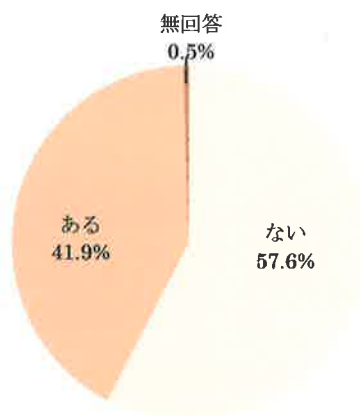
施設	人数 (人)	割合 (%)
医療機関 (急性期)	128	64.6
医療機関 (慢性期)	126	63.6
医療機関 (診療所・)	82	41.4
訪問看護ステーション	18	9.1
グループホーム	5	2.5
小規模多機能型居宅介護	5	2.5
デイサービス	24	12.1
教育機関	4	2.0
その他	19	9.6

※老健と特養も回答施設にあげていたが、「現在の施設を除く」との注意書きをしていなかった為、正確さに欠けると判断し、ここでは削除した。

8) 現在の職場に勤務する直前に、看護職として働いていない期間の有無

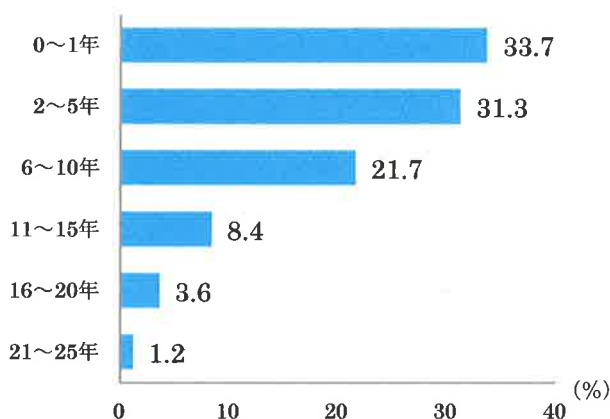
「ない」と回答したのは 57.6%、「ある」と回答したのは 41.9%であった。「ある」と回答した人の期間は、2ヶ月から24年1ヶ月であった。

図表 1-8 働いていない期間の有無 (n=198)



有無	人数 (人)	割合 (%)
ない	114	57.6
ある	83	41.9
無回答	1	0.5

図表 1-9 「ある」と回答した人の働いていない期間 (n=83)

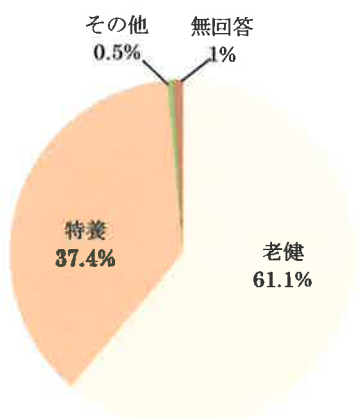


期間	人数 (人)	割合 (%)
0~1年	28	33.7
2~5年	26	31.3
6~10年	18	21.7
11~15年	7	8.4
16~20年	3	3.6
21~25年	1	1.2

9) 現在勤務している施設

回答者が現在勤務しているのは、「老健」61.1%、「特養」37.4%であった。

図表 1-10 現在勤務している施設 (n=198)



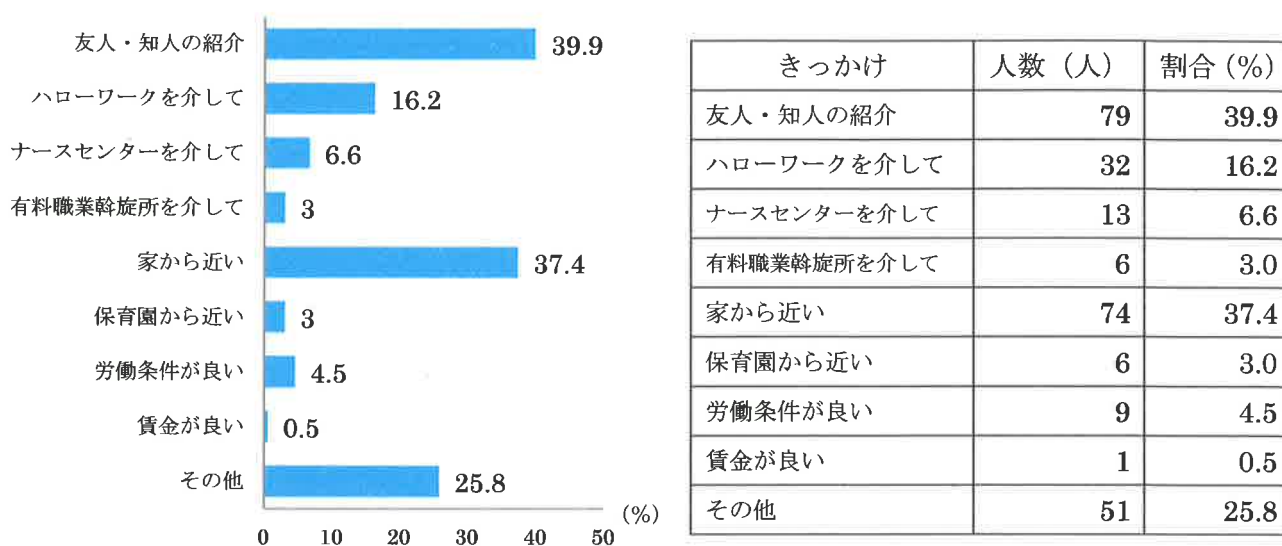
施設	人数 (人)	割合 (%)
老健	121	61.1
特養	74	37.4
その他 ^(%)	1	0.5
無回答	2	1.0

※その他はデイサービスと記載あり施設内の通所部門と考え集計に含んだ。

10) 現在の施設に入職したきっかけ（複数回答）

入職理由は、「友人・知人の紹介」が最も多く 39.9%で、次いで「家から近い」が 37.4%であった。

図表 1-11 入職のきっかけ (n=198)

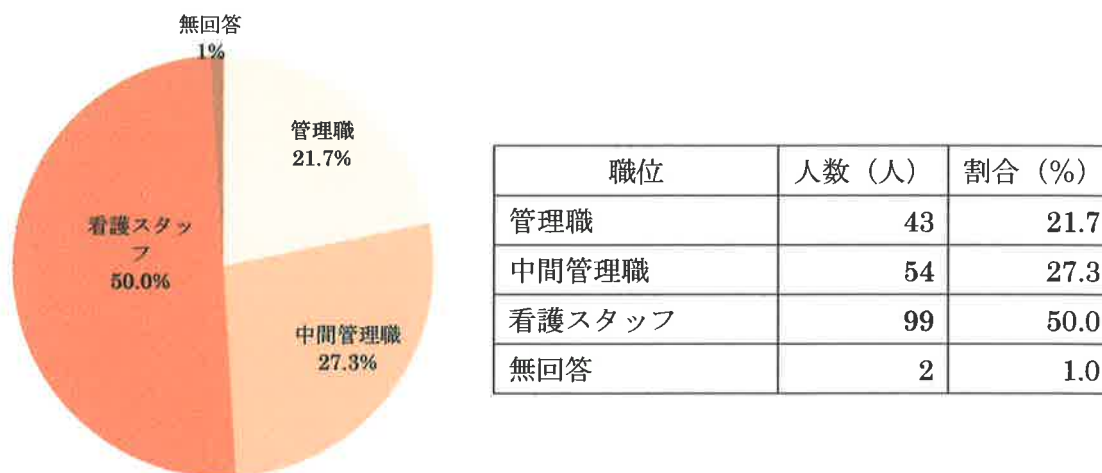


※その他の理由の具体的記載は、「法人内異動」が 11.1%、「新聞・求人チラシを見て」が 3.0%等であった。

11) 現在の職位

回答者の職位は、「管理職」と回答が 21.7%、「中間管理職」が 27.3%、「看護スタッフ」が 50.0%であった。

図表 1-12 職位 (n=198)



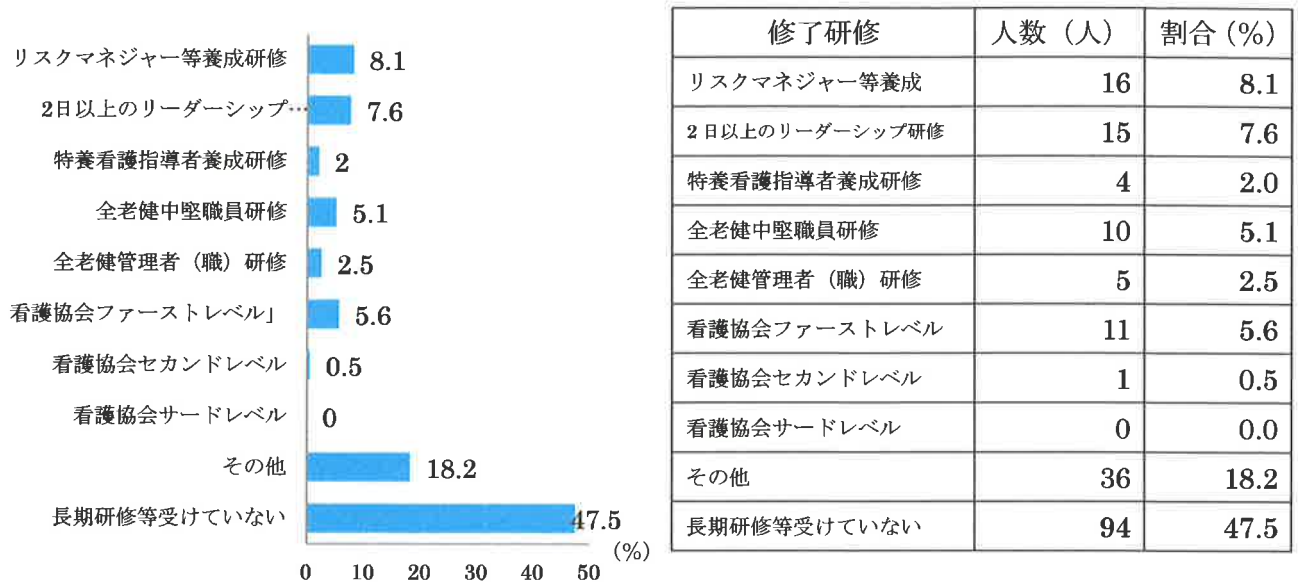
※管理職と回答した中に、特養 1 人・老健 2 人の准看護師を含んでいた。

中間管理職と回答した中に、特養 4 人・老健 8 人の准看護師を含んでいた。

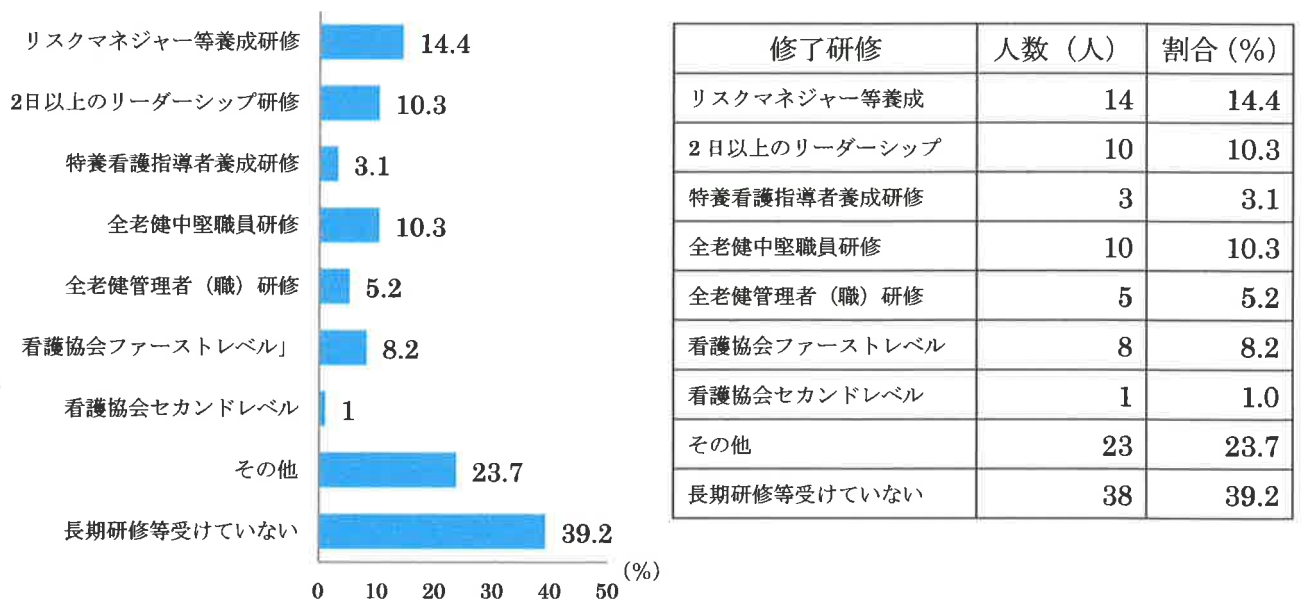
12) 修了している長期研修等

「リスクマネジャー等養成研修」が8.1%で最も多かった。「受けていない」と回答したのは、47.5%であった。

図表 1-13 修了している長期研修等（複数回答）（n=198）



図表 1-14 管理職・中間管理職と答えた人の修了している長期研修等（n=97）



※その他は、岡山県老人保健施設協会主催の「感染対策エキスパート養成研修」6.2%、「実習指導者養成研修」5.2%等であった。

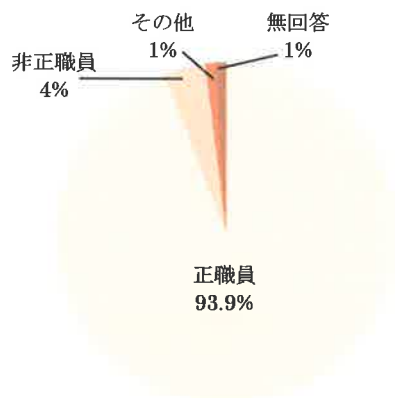
「全老健中堅職員研修」「全老健管理者（職）研修」修了者は、全員老健の管理職・中間管理職と答えていた。

2 労働環境

1) 雇用形態

回答者の雇用形態は、「正職員」93.9%、「非正職員」4.0%であった。「その他」は、「高齢者雇用継続」、「週30時間固定」と記載されていた。

図表 2-1 雇用形態 (n=198)



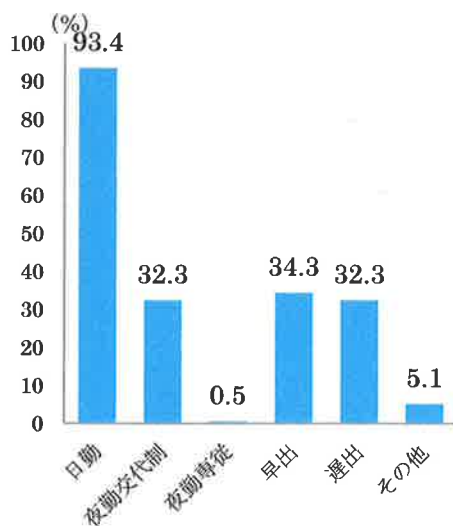
雇用形態	人数 (人)	割合 (%)
正職員	186	93.9
非正職員	8	4.0
その他	2	1.0
無回答	2	1.0

2) 勤務している時間帯 (複数回答)

回答者が勤務している時間帯は、「夜勤交代制」32.3%、「早出」34.3%、「遅出」32.3%であった。「夜勤交代制」の内訳は、「二交代」が57.8%が多かった。

「日勤」と回答した93.4%のうち、「日勤」だけの勤務をしているのは、全体の34.3%で、うち月曜日から金曜日のみ勤務していると回答したのは、全体の3.5%であった。

図表 2-2 勤務している時間帯 (複数回答) (n=198)



時間帯	人数 (人)	割合 (%)
日勤	185	93.4
夜勤交代制	64	32.3
夜勤専従	1	0.5
早出	68	34.3
遅出	64	32.3
その他	10	5.1

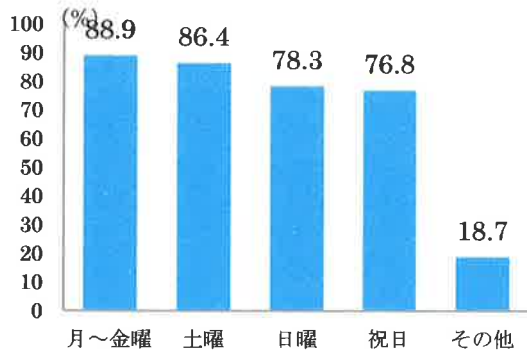
※その他には、オンコール待機、時間短縮と記載されていた。

※夜勤交代制の内訳は、「二交代」57.8%、次いで「当直」15.6%、「三交代」9.4%、「無回答」17.2%であった (n=64)。

3) 勤務している曜日（複数回答）

具体的記載では、「シフトにより全曜日を出勤」等が多かった。「月～金曜日のみ出勤」が88.9%であったが、うち土・日・祝日にチェックがなかったのは4.0%であった。

図表 2-3 勤務している曜日（複数回答）（n=198）

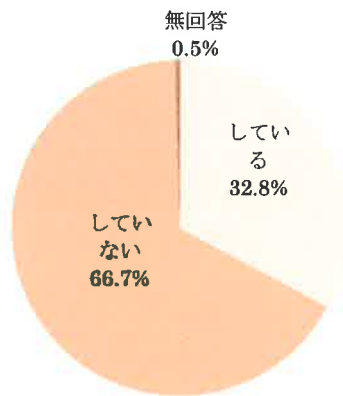


曜日	人数 (人)	割合 (%)
月～金曜日	176	88.9
土曜日	171	86.4
日曜日	155	78.3
祝日	152	76.8
その他	37	18.7

4) 夜勤の有無

夜勤を「している」と回答したのは32.8%、「していない」は66.7%であった。

図表 2-4 夜勤の有無（n=198）

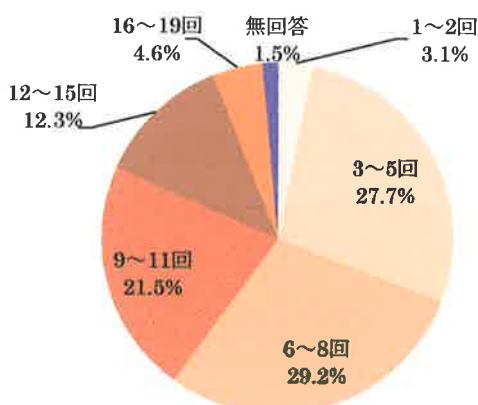


有無	人数 (人)	割合 (%)
している	65	32.8
していない	132	66.7
無回答	1	0.5

5) 月平均の夜勤回数

「夜勤をしている」と回答した人の、月平均の夜勤回数は、6～8回が最も多く29.2%、次いで3～5回が27.7%であった。 ※二交代で準夜・深夜（夕方から翌朝まで勤務）は2回と計算。

図表 2-5 月平均夜勤回数（n=65）



平均回数 (回)	人数 (人)	割合 (%)
1～2	2	3.1
3～5	18	27.7
6～8	19	29.2
9～11	14	21.5
12～15	8	12.3
16～19	3	4.6
無回答	1	1.5

6) 1回の夜勤手当

- ・二交代：5,000～18,000円 平均 9,548円

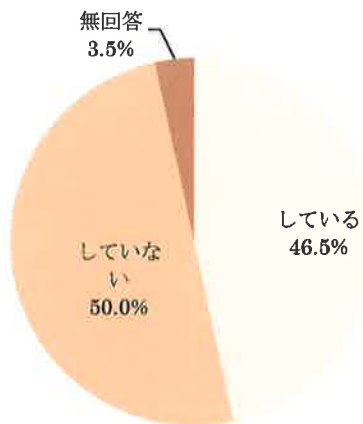
回答者が多かった手当は、8,000円 14人、10,000円 10人、11,000円 6人

- ・三交代準夜：4,800～6,000円 平均 5,267円
- ・三交代深夜：5,600～7,000円 平均 6,275円

7) オンコール待機の有無

「している」と回答したのは46.5%、「していない」と回答したのは50.0%であった。

図表 2-6 オンコール待機の有無 (n=198)

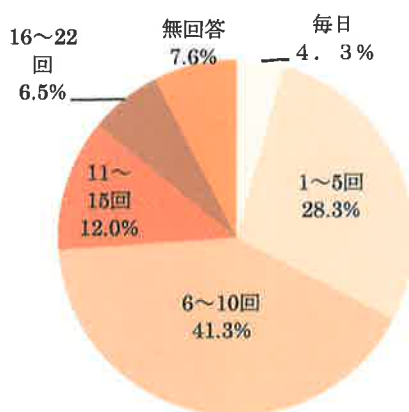


有無	人数 (人)	割合 (%)
している	92	46.5
していない	99	50.0
無回答	7	3.5

8) 月平均のオンコール待機回数

「オンコール待機をしている」と回答した人の月平均のオンコール待機回数は、「6～10回」が41.3%と最も多く、その中でも「10回」と回答したのが20.7%で一番多かった。

図表 2-7 月平均オンコール待機回数 (n=92)



平均回数	人数 (人)	割合 (%)
毎日	4	4.3
1～5回	26	28.3
6～10回	38	41.3
11～15回	11	12.0
16～22回	6	6.5
無回答	7	7.6

9) 1回のオンコール待機手当

- ・1回あたりの手当：200～2,000円 平均 1,025円

「なし」と回答したのは23人、その他「電話を受けたら1,000円」1人、

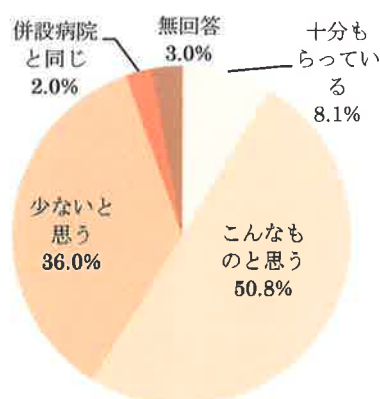
「出勤したら時間外手当がつく」3人の記載があった。

- ・月単位で手当が支給されている人の手当は、2,000～15,000円 平均 6,284円

10) 給与は仕事に見合った金額と感じるか（思いが一番近いもの）

「こんなものと思う」と回答したのは 50.5%で最も多く、次いで「少ないと思う」35.9%であった。

図表 2-8 給与は仕事に見合った金額と感じているか (n=197)



	人数 (人)	割合 (%)
十分もらっている	16	8.1
こんなものと思う	100	50.8
少ないと思う	71	36.0
併設病院と同じ	4	2.0
無回答	6	3.0

※無効回答 1人

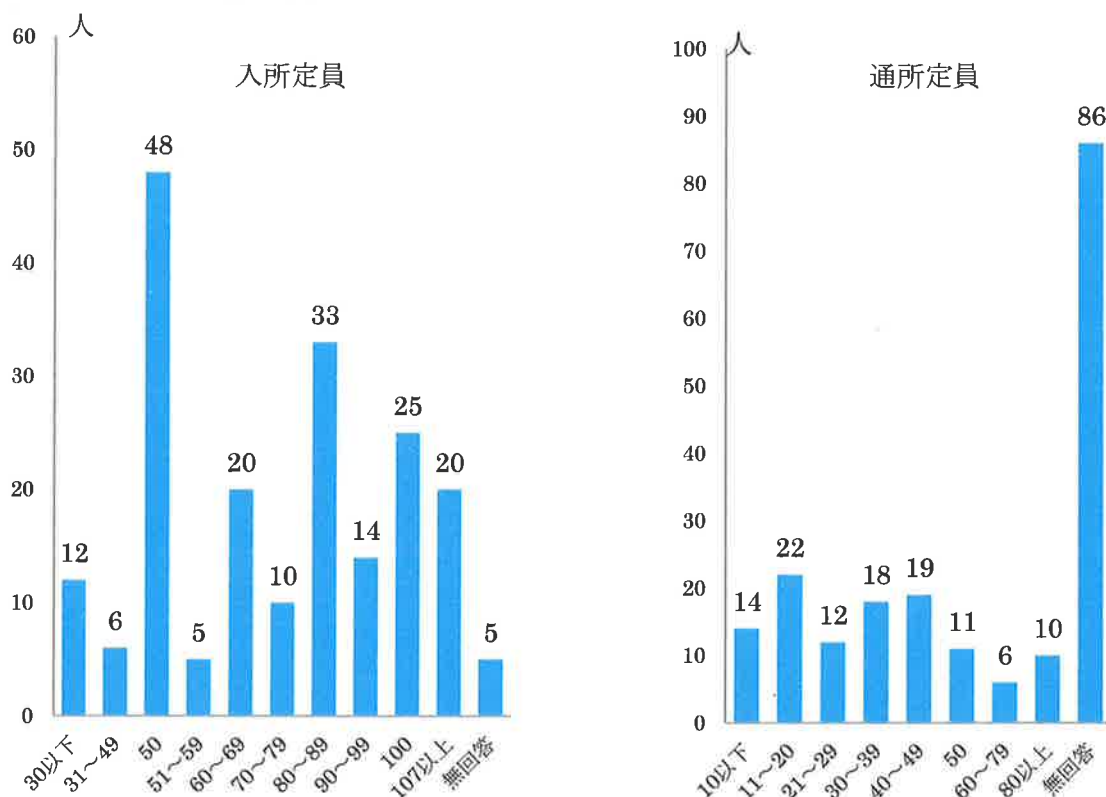
「少ないと思う」の理由（自由記載）の主なもの

- ・医者がいないため責任が看護師にある
- ・医師不在の施設で急変時対応など病院よりストレスがある
- ・急変時等あれば少ない
- ・責任のあるわりには少ないと思う
- ・ほぼ介護職と同等の給与でありながら責任は医療職の方が重い
- ・相談員と兼務で業務が増えても変わらない
- ・介護度があがり仕事量が増えた
- ・介護をしているにもかかわらず介護手当がつかない
- ・介護業務も兼ねている、オンコールの時は何かあったらと思うと眠れない
- ・精神的なストレス、介護職員とほぼ同額
- ・早・遅番も多く、日祝日の手当も全くないため
- ・役職でないが看護主任と同じ仕事内容
- ・基本給少なく昇給がない
- ・何年たっても上がらない
- ・経験年数に応じた昇給がない
- ・病院での給与の 2/3、 ・病院勤務での給与と比較すると基本給が低い
- ・併設病院と当直手当の差がある
- ・併設病院の基本給や役職手当に差があり不審に思う
- ・年齢・経験年数からすればもう少し高くても良い、 ・入職が 50 歳近かったため昇給もない
- ・他より基本給・ボーナス安い
- ・他施設と比較して
- ・一般の会社と比べて
- ・有休とれない、無理して休むことなく仕事をしている
- ・パートが多く、正職員の負担が大きい
- ・正職員に比べパートは重労働を強いられる

11) 勤務している施設の利用定員数

回答者が勤務している施設の、入所定員は平均 74.2 人で 14 人から 180 人規模であった。

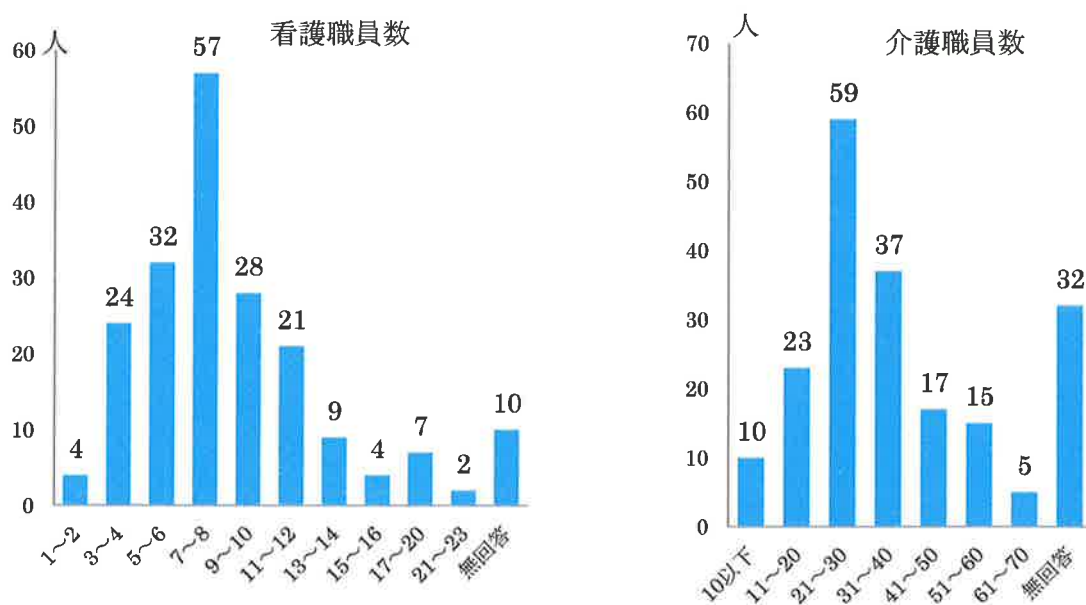
図表 2-9 利用定員 (n=198)



12) 施設の職員数

回答者が勤務している施設の、1施設あたりの平均看護職員数は 8.3 人で、1 人から 23 人であった。

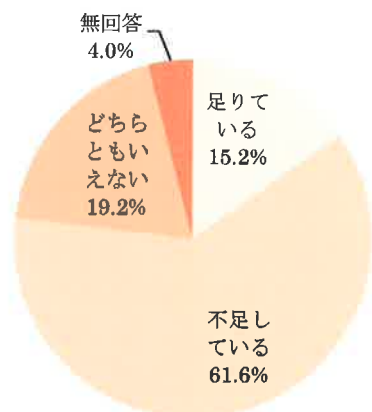
図表 2-10 看護・介護職員数 (n=198)



13) 自施設の看護職員数をどう感じているか（回答者の感で）

「足りている」15.2%、「不足している」61.6%であった。

図表 2-11 看護職員数をどう感じているか（n=198）



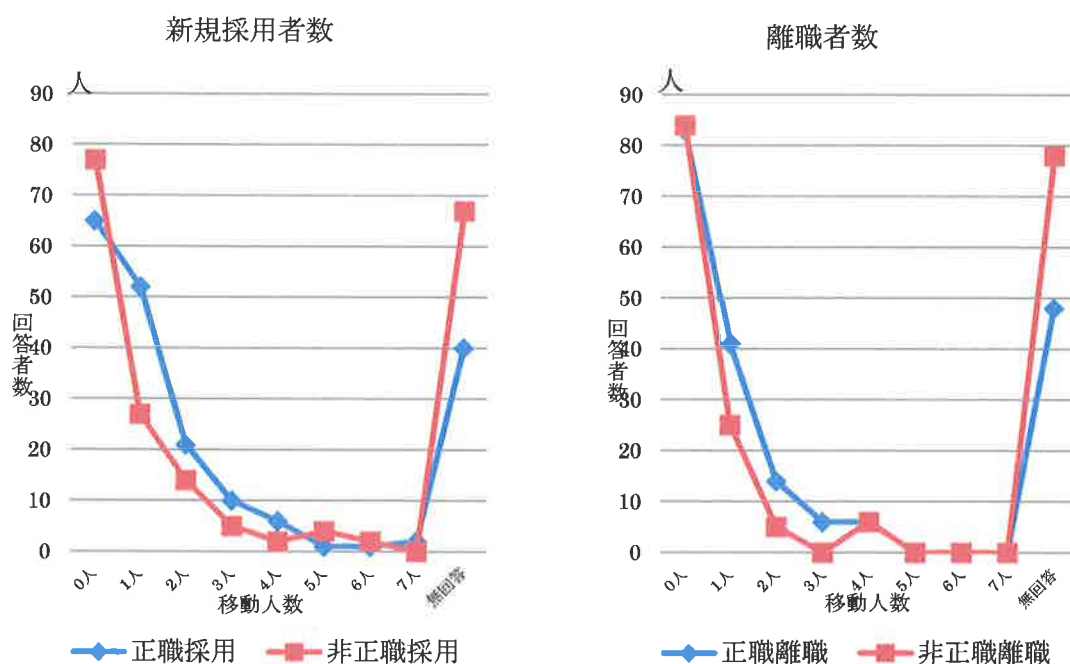
	人数 (人)	割合 (%)
足りている	30	15.2
不足している	122	61.6
どちらともいえない	38	19.2
無回答	8	4.0

※不足と感じる理由（自由記載）

病欠者がいる、産休がいる、人数はいるが高齢看護師が多い、常勤2人なので

14) 看護職員の新規採用者数、離職者数（平成28年4月から12月の期間）

図表 2-12 新規採用者数・離職者数（n=198）



離職者より採用者が多い	64人
離職者より採用者が少ない	33人
離職者・採用者が同数	27人
離職者・採用者とも0人	36人

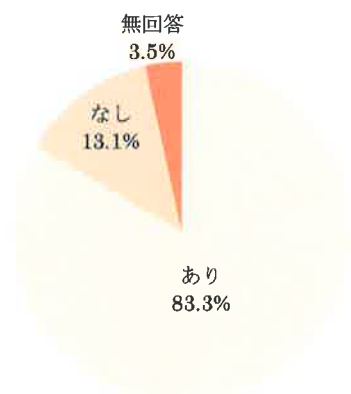
※非正職は、0.5で換算した。

※無回答および判断不能が38人。

15) 時間外労働

時間外労働「あり」と回答したのは83.3%であった。

図表 2-13 時間外労働の有無 (n=198)

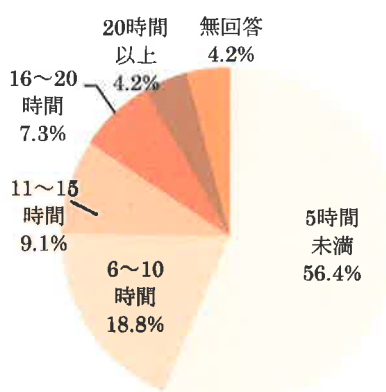


有無	人数 (人)	割合 (%)
あり	165	83.3
なし	26	13.1
無回答	7	3.5

16) 過去1年間の1ヶ月あたりの平均時間外時間

「時間外労働あり」と回答した人の1ヶ月あたりの平均時間外は、「5時間未満」が56.4%と一番多かった。

図表 2-14 過去1年間の1ヶ月あたりの平均時間外時間 (n=165)

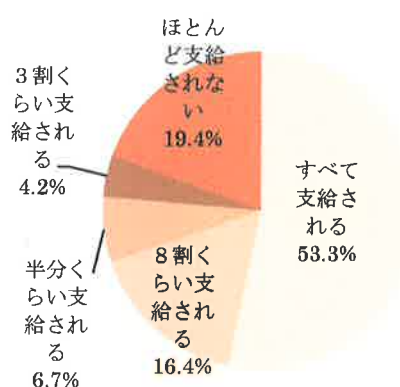


時間数	人数 (人)	割合 (%)
5時間未満	93	56.4
6~10時間	31	18.8
11~15時間	15	9.1
16~20時間	12	7.3
20時間以上	7	4.2
無回答	7	4.2

17) 時間外手当の支給 (一番近いもの)

「時間外労働あり」と回答した人の時間外手当は、「すべて支給される」は53.3%であった。

図表 2-15 時間外手当の支給状況 (n=165)

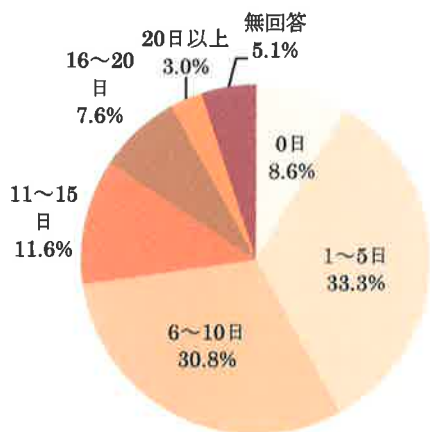


支給状況	人数 (人)	割合 (%)
すべて支給される	88	53.3
8割くらい支給される	27	16.4
半分くらい支給される	11	6.7
3割くらい支給される	7	4.2
ほとんど支給されない	32	19.4

18) 1年間の有給取得日数（平成28年4月～平成29年3月）

「1～5日」が33.3%と一番多く、次いで「6～10日」が30.8%であった。「0日」と回答したのは、8.6%であった。

図表2-16 有給取得日数（n=198）

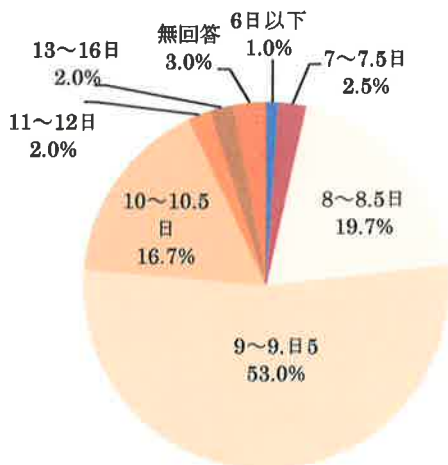


取得日数	人数 (人)	割合 (%)
0日	17	8.6
1～5日	66	33.3
6～10日	61	30.8
11～15日	23	11.6
16～20日	15	7.6
20日以上	6	3.0
無回答	10	5.1

19) 1ヶ月の平均休日数

「9～9.5日」が53.0%で一番多く、次いで「8～8.5日」19.7%であった。「6日以下」は1.0%であった。

図表2-17 1ヶ月の平均休日数（n=198）



日数	人数 (人)	割合 (%)
6日以下	2	1.0
7～7.5日	5	2.5
8～8.5日	39	19.7
9～9.5日	105	53.0
10～10.5日	33	16.7
11～12日	4	2.0
13～16日	4	2.0
無回答	6	3.0

3 業務内容

1) 通常行っている業務内容（複数回答）

通常行っている業務内容は以下の通りであった。

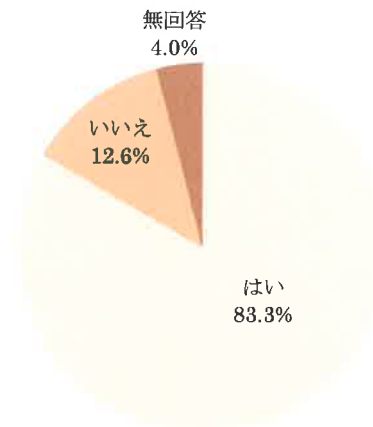
図表 3-1 通常行っている業務内容（複数回答）（n=198）

	業務内容	人数（人）	割合（％）
食事	食事介助	155	78.3
	経管栄養管理	179	90.4
	中心静脈栄養管理	7	3.5
排泄	おむつ交換	126	63.6
	トイレ介助	125	63.1
	浣腸	172	86.9
	摘便	172	86.9
	導尿	131	66.2
	尿道留置カテーテル交換	148	74.7
	ストーマ	91	46.0
	膀胱（腎）ろう	34	17.2
清潔	入浴介助	87	43.9
	清拭	97	49.0
	洗髪	58	29.3
	手浴・足浴	65	32.8
	陰部洗浄	102	51.5
	洗面介助	86	43.4
	口腔ケア	147	74.2
	更衣介助	113	57.1
環境整備	爪切り	146	73.7
	環境整備	100	50.5
	シーツ交換・ベッドメーカーキング	91	46.0
	医療安全	141	71.2
運動	感染対策	171	86.4
	移動・移乗介助	147	74.2
	レクリエーション企画・実施	42	21.2
	リハビリテーション	39	19.7
医療行為	送迎	43	21.7
	創処置（褥瘡等）	184	92.9
	与薬	182	91.9
	調剤	68	34.3
	心電図検査	71	35.9
	採血	174	87.9
	注射・点滴・インスリン等	174	87.9
	吸引	157	79.3
	酸素吸入	151	76.3
	気管切開管理	21	10.6
人工呼吸器管理	0	0.0	
観察・アセスメント	バイタルサイン測定	185	93.4
	病状観察・アセスメント	186	93.9
	急変時対応	177	89.4
終末期	看取り	141	71.2
	エンゼルメイク	126	63.6
	痛みのケア	101	51.0
	家族のケア	118	59.6
記録・管理関連	記録	183	92.4
	ケアプラン立案	69	34.8
	申送り・チームカンファレンス	174	87.9
	入退所手続き	88	44.4
	サービス担当者会議	94	47.5
多職種連携	医師との連絡・相談	187	94.4
	病院受診付き添い	153	77.3
	病状説明	141	71.2
指導教育	家族連絡・相談・指導	143	72.2
	入退所指導	69	34.8
	職員指導	122	61.6
	実習生指導	52	26.3

2) 現在の業務に不安を感じるものがあるか

「はい」と回答したのは、83.3%、「いいえ」は12.6%であった。

図表 3-2 現在の業務に不安を感じているか (n=198)



	人数 (人)	割合 (%)
はい	165	83.3
いいえ	25	12.6
無回答	8	4.0

3) 不安を感じる業務内容 (複数回答)

業務不安があると感じている回答者の不安業務は、多いものから「急変時の対応」41.8%、「職場内の人間関係」38.8%、「医師との連携」34.5%であった。

図表 3-3 業務不安を感じている回答者の不安業務 (複数回答) (n=165)

不安業務	人数 (人)	割合 (%)
急変時の対応	69	41.8
職場内の人間関係	64	38.8
医師との連携	57	34.5
介護職への指導	55	33.3
看護職員配置数	53	32.1
感染対策	53	32.1
多職種連携	45	27.3
看護技術	41	24.8
オンコール待機	40	24.2
医療安全	40	24.2
認知症看護	35	21.2
家族への対応	35	21.2
病状観察・アセスメント	32	19.4
看取り	30	18.2
フィジカルアセスメント	26	15.8
労働環境	26	15.8
痛みのケア	20	12.1
夜勤	16	9.7
医療行為	13	7.9
医療機器の操作	13	7.9
看護実習指導	12	7.3
チームカンファレンス	11	6.7
レクリエーション企画・実施	10	6.1
病院受診付き添い	9	5.5
ケアプラン立案	9	5.5
サービス担当者会議	8	4.8
リハビリテーション	7	4.2
調剤	5	3.0
介護実習指導	4	2.4
送迎	3	1.8
その他	11	6.7

※医療行為の具体的記載

- ・採血点滴、
- ・男性の尿道カテーテル交換、
- ・与薬、
- ・注射、
- ・創処置、
- ・軽い皮膚異常のケア、
- ・老健が長くなると新しい治療がわかりにくい
- ・病院と比べ少ない為、
- ・十分なケアができていない

※労働環境の具体的記載

- ・認知症の増加、
- ・BPSD憎悪者の増加
- ・ターミナルが増加しているのに対し、看護師の高齢化が進んでおり、後進がない
- ・看護師の高齢化
- ・今後の看護師不足、定年近い看護師が大半
- ・新入職者は、夜勤・日祝日勤務免除され、以前からいる者の希望は通らない、離職に繋がる
- ・オンコール待機・日祝日勤務も2名しか対応できない
- ・夜勤をする人数が限られている
- ・正職の看護師が少ない
- ・看護師不足で有給使えない、体調不良でも休めない
- ・人員が少ない為職員の不満が最大値になっている、それでも業務は進めなければいけない
- ・高齢化、虚弱、認知症の方が増え日常生活支援にかなりの介護必要だがスタッフが少ない
- ・介護スタッフ不足
- ・人手不足
- ・一人ひとりの利用者にゆっくり関わる時間が足りない
- ・休息時間を取れないことがある
- ・休日は他のスタッフの人数が極端に少なく一人にかかる負担がある
- ・タイムカードを押しての残業
- ・勤務時間内に業務が終わらない、自宅ですること多い
- ・看護職員の看護技術等のレベルアップ指導
- ・医療的ケアの指導が正看のみが許可されている、1人なので負担、准看でも良いのでは
- ・自身の間観（倫理感）
- ・同じ業務をしているのに介護だけ国から手当が出る、不公平でモチベーションが下がる

※その他の具体的記載

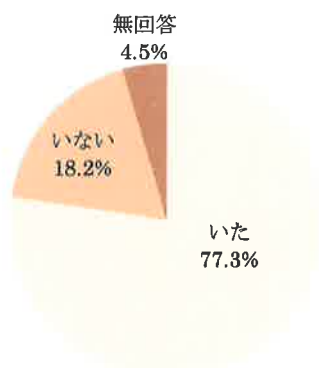
- ・医師不在にて全て看護師の判断
- ・急変時に市内の病院が受け入れてくれるか心配
- ・人数が少ない為転倒のリスクとか考える
- ・職員の指導方法
- ・年齢を重ねていくと今までできていたことがいつまでできるか不安
- ・自分の体力の低下
- ・土日祝日に休みが取れない
- ・勤務希望にむらがある
- ・関わっていない業務が多数ある
- ・遠距離通勤をしている
- ・介護職への吸痰研修が、対象者がいないためにできない

であった。

4) 施設内で死亡した入居者の有無（平成 28 年 4 月から 12 月の期間）

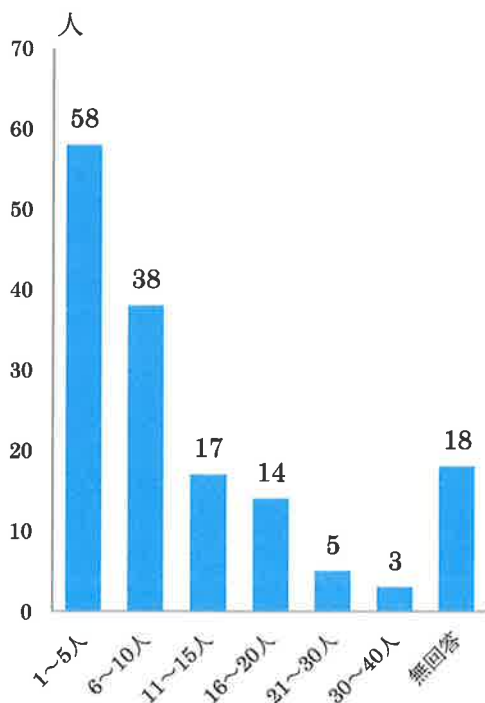
死亡した入居者が「いた」と回答したのは、77.3%であった。

図表 3-4 施設内で死亡した入居者の有無（n=198）



有無	人数 (人)	割合 (%)
いた	153	77.3
いない	36	18.2
無回答	9	4.5

図表 3-5 期間内の施設内死亡者数（n=153）



20名以上死亡している施設の定員別死亡者数

50床：20人、32人

80床：21人、26人、32人

100床：28人

120床：28人

125床：25人

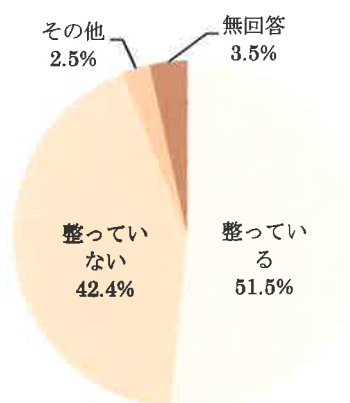
150床：20人、20人、40人

4 研修環境

1) 職員教育体制

「整っている」51.5%、「整っていない」42.4%であった。

図表 4-1 職員教育体制 (n=198)



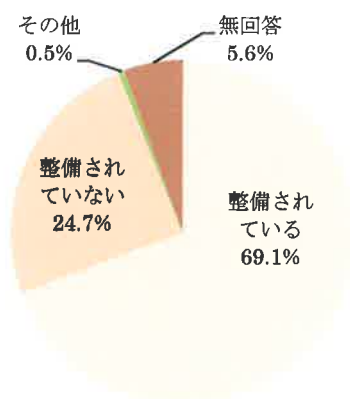
教育体制	人数 (人)	割合 (%)
整っている	102	51.5
整っていない	84	42.4
その他	5	2.5
無回答	7	3.5

※その他は、「どちらともいえない」2.0%、「十分でない」0.5%の記載があった

2) 業務基準や手順・マニュアルについて

「整備されている」と回答したのは、69.1%であった。

図表 4-2 業務基準・手順、マニュアルの整備 (n=198)



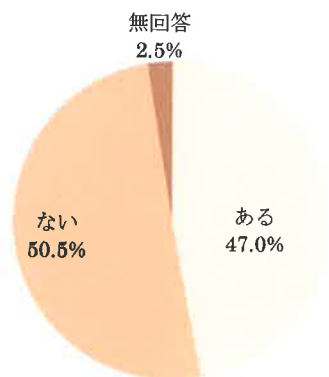
	人数 (人)	割合 (%)
整備されている	137	69.1
整備されていない	49	24.7
その他	1	0.5
無回答	11	5.6

※その他は、「どちらとも」の記載があった

3) 看護職員対象の施設外研修参加の有無（平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月）

「ある」47.0%、「ない」50.5%であった。

図表 4-3 看護職員対象の施設外研修参加の有無（n=198）



	人数 (人)	割合 (%)
ある	93	47.0
ない	100	50.5
無回答	5	2.5

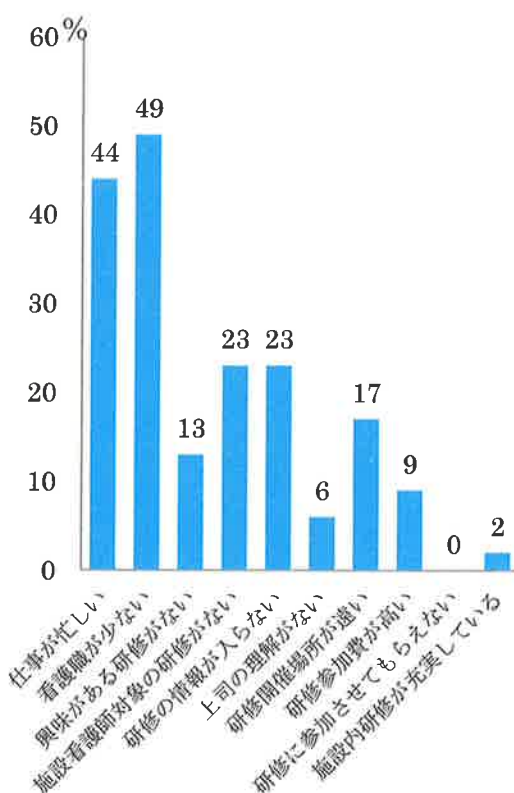
※「ある」と回答した人の参加研修名の具体的記載は、多いものから感染症・感染対策関連で岡山県老人保健施設協会主催のもの（感染対策エキスパート養成研修含む）に約 3 分の 1 の人が参加していた。

次いで、看護師職能集会、褥瘡関連、看取り研修等であった。

4) 看護職員対象の施設外研修に参加できなかった人の理由（複数回答）

回答者の理由は多いものから、「看護職が少なく参加できない」49.0%、「仕事が忙しく参加できない」44.0%であった。

図表 4-4 参加できなかった理由（複数回答）（n=100）



理由	人数 (人)	割合 (%)
仕事が忙しい	44	44.0
看護職が少ない	49	49.0
興味ある研修がない	13	13.0
施設看護師対象の研修がない	23	23.0
研修の情報が入らない	23	23.0
上司の理解がない	6	6.0
研修開催場所が遠い	17	17.0
研修参加費が高い	9	9.0
研修に参加させてもらえない	0	0.0
施設内研修が充実している	2	2.0

※その他の理由の具体的記載

- ・もっと施設看護師向けの研修をして欲しい
- ・現場の看護師を行かせている ・入職して期間が短い ・当施設にきて3ヶ月くらいの為
- ・家庭の事情 ・家庭の事情で行くことができない ・休みの日は母の介護
- ・休日か有給を使用しての参加になるので ・自分の休みで参加となっているが子供小さく無理
- ・勤務終了後の参加には無理がある
- ・自身の体調不良 ・体調不良
- ・仕事だけで十分スキルアップ望まない ・参加する意思がない ・参加意欲がない

等

5) 受けた研修テーマ自由記載)

- ・介護施設の看護師の役割、 ・看護師の立ち位置
- ・看護管理、 ・管理者研修
- ・高齢者施設の実情、 ・施設看護師の交流、 ・介護施設の看護の実際、 ・病院と施設の違い
- ・事故発生時の記録
- ・業務管理
- ・人材育成について（無資格者が多く離職も多い）
- ・介護職指導
- ・リスクマネジメント
- ・メンタルヘルス、 ・ストレスマネジメント
- ・パワーハラスメント
- ・認知症について、 ・認知症看護、 ・精神科の人のケア
- ・看取り、 ・エンゼルケア関連
- ・緊急時対応
- ・ボディメカニクス
- ・摂食嚥下
- ・フットケア
- ・リンパマッサージ
- ・胸腹部聴診
- ・拘縮予防、生活リハビリ
- ・胃ろうの管理
- ・褥瘡処置
- ・ストーマ管理
- ・C-PAPの看護
- ・最新の医療について
- ・家族対応
- ・クレーム対応
- ・多職種連携
- ・接遇

等

Ⅲ 調査票

高齢者ケア施設で働く看護職の実態調査票

各項目の該当する番号に○をつけてください。

また、() 内には該当する数字または文字をご記入ください。

回答は、平成29年6月1日現在でご記入ください。

◇ 属性 あなたのことをお尋ねします。

問1 あなたの年齢

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代 6. 70代

問2 あなたの性別

1. 男性 2. 女性

問3 あなたが現在働いている（雇用契約の）資格は

1. 看護師 2. 准看護師 3. その他 ()

問4 あなたがもっている資格は（保持資格すべてに○をつけて下さい）

1. 保健師 2. 看護師 3. 准看護師 4. 助産師
5. 認定看護師・専門看護師（具体的に：)
6. 介護支援専門員 7. 認知症ケア専門士
8. その他（具体的に：)

問5 あなたの経験年数他について

1. 看護職としての経験年数 (年 ヶ月)
2. 今働いている施設での経験年数 (年 ヶ月)
3. これまでに、看護職員として勤務したことがある施設、全てに○をつけてください
- | | | |
|--------------|--------------|------------------|
| ①医療機関（急性期） | ②医療機関（慢性期） | ③医療機関（診療所・クリニック） |
| ④訪問看護ステーション | ⑤介護老人保健施設 | ⑥介護老人福祉施設（特養） |
| ⑦グループホーム | ⑧小規模多機能型居宅介護 | ⑨デイサービス |
| ⑩教育機関 | | |
| ⑪その他（具体的に：) | | |
4. 現在の職場に勤務する直前に、看護職として働いていない期間がありましたか
- ①ない ②ある (年 ヶ月)

問6 あなたの現在勤務している施設は

1. 介護老人保健施設
2. 介護老人福祉施設（特養）
3. その他（具体的に： _____）

問7 あなたが現在の施設に入職したきっかけについて（該当するもの全てに○をつけてください）

1. 友人・知人の紹介
2. 職業安定所（ハローワーク）を介して
3. ナースセンターを介して
4. 有料職業斡旋所を介して
5. 家から近い
6. 保育園から近い
7. 労働条件が良い
8. 賃金が良い
9. その他（具体的に： _____）

問8 あなたの現在の職位他について

1. 現在の職位は
①管理職（具体的に： _____） ②中間管理職（具体的に： _____）
③看護スタッフ

2. 修了している長期研修等、全てについて○をつけてください

- ①リスクマネジャー等養成研修（研修実施機関： _____）
- ②2日以上のリーダーシップ研修（研修実施機関： _____）
- ③これからの特別養護老人ホームにおける看護指導者養成研修
- ④全老健主催の中堅職員研修
- ⑤全老健主催の管理者（職）研修
- ⑥看護協会主催のファーストレベル研修
- ⑦看護協会主催のセカンドレベル研修
- ⑧看護協会主催のサードレベル研修
- ⑨その他（研修名と主催を具体的に： _____）
- ⑩長期研修等受けていない

◇労働環境についてお尋ねします。

問9 あなたの雇用形態は

1. 正職員
2. パート（非正職）職員
3. その他（具体的に： _____）

問10 現在のあなたの勤務の時間帯について、行っているもの全てに○をつけてください

1. 日勤
2. 夜勤交代制勤務（①二交代、②三交代、③当直）
3. 夜勤専従
4. 早出
5. 遅出
6. その他（具体的に： _____）

問11 現在のあなたの勤務の曜日について、行っているもの全てに○をつけてください

1. 月から金曜のみ出勤
2. 土曜出勤
3. 日曜出勤
4. 祝日出勤
5. その他（具体的に： _____）

問12 あなたは夜勤をしていますか

1. している
2. していない



「している」と回答された方

問12-2 月平均何回夜勤をしていますか () 回

※二交代で、準夜・深夜（夕方から翌朝まで勤務）は2回と計算してください。

問12-3 差し支えなければ1回の夜勤手当を教えてください 二交代1回 () 円

三交代 準夜1回 () 円、深夜1回 () 円

問13 あなたはオンコール体制の待機をしていますか

1. している
2. していない



「している」と回答された方

問13-2 オンコール待機は月平均何回ですか () 回

問13-3 差し支えなければ1回のオンコール手当を教えてください 1回 () 円

問14 あなたの給与は仕事にみあった金額と感じていますか（あなたの思いに一番近いもの一つ）

1. 十分もらっている
2. こんなものと思う
3. 少ないと思う（理由：)
4. 併設病院（法人内他事業所）と同じ

問15 あなたが勤務している施設の利用定員数は何人ですか（わかる範囲で結構です）

1. 入所定員 () 人
2. 通所定員 () 人

問16 あなたの施設の職員数についてお尋ねします（わかる範囲で結構です）

1. 看護職員数 () 人
2. 介護職員数 () 人

問17 あなたの施設の看護職員数は（あなたの感じでお答えください）

1. 足りていると思う
2. 不足していると思う
3. どちらともいえない

問18 看護職員の新規採用者数、離職者（理由は問わない）数について（わかる範囲で結構です）

1. 平成28年4月～12月の看護職員の採用者数

正職員 () 人 パート（非正職）職員 () 人

2. 平成28年4月～12月の看護職員の離職者数

正職員 () 人 パート（非正職）職員 () 人

問19 時間外労働について

1. あり 2. なし



「あり」と回答された方

問19-2 過去1年間の1ヶ月あたりの平均時間外は（およそで結構です）

- ① 5時間未満 ② 6～10時間 ③ 11～15時間 ④ 16～20時間
⑤ 20時間以上（具体的に：おおよそ 時間）

問19-3 上記のうち時間外手当の支給は（一番近いものを選んでください）

- ① 全て支給される ② 8割くらい支給される ③ 半分くらい支給される
④ 3割くらい支給される ⑤ ほとんど支給されない

問20 平成28年4月～29年3月の1年間のあなたの有休取得日数について

1. 0日 2. 1～5日 3. 6～10日 4. 11～15日 5. 16～20日
6. 20日以上

問21 休日について

1. 1か月の平均休日数（ ）日

※休日とは、週休・祝日・年末年始など就業規則に定める所定の休日の合計数で、有休は含みません

◇ あなたの業務についてお尋ねします。

問22 あなたが通常行っている業務について、該当する番号全てに○をつけて下さい

◆食事に関するケア

1. 食事介助 2. 経管栄養（①経鼻 ②胃ろう ③腸ろう）の管理
3. 中心静脈栄養の管理（①カテーテル ②ポート）

◆排泄に関するケア

4. おむつ交換 5. トイレ介助 6. 浣腸 7. 摘便
8. 導尿 9. 尿留置カテーテル交換 10. ストーマ 11. 膀胱（腎）ろう

◆清潔に関するケア

12. 入浴介助 13. 清拭 14. 洗髪 15. 手浴・足浴
16. 陰部洗浄 17. 洗面介助 18. 口腔ケア 19. 更衣介助
20. 爪きり

◆環境整備に関するケア

21. 環境整備 22. シーツ交換・ベッドメイキング 23. 医療安全
24. 感染対策

◆運動に関するケア

25. 移動・移乗介助 26. レク企画・実施 27. リハビリテーション 28. 送迎

◆医療行為に関するケア

- 29. 創処置（褥瘡など）
- 30. 与薬
- 31. 調剤
- 32. 心電図検査
- 33. 採血
- 34. 注射・点滴・インスリン等
- 35. 吸引
- 36. 酸素吸入
- 37. 気管切開管理
- 38. 人工呼吸器管理
- 39. その他（ ）

◆観察・アセスメント

- 40. バイタルサインの測定
- 41. 病状の観察・アセスメント
- 42. 急変時対応

◆終末期に関するケア

- 43. 看取り
- 44. エンゼルメイク
- 45. 痛みのケア
- 46. 家族のケア

◆記録・管理に関すること

- 47. 記録
- 48. ケアプラン立案・評価
- 49. 申し送り・チームカンファレンス
- 50. 入退所手続き
- 51. サービス担当者会議

◆他職種との連携

- 52. 医師との連絡・相談
- 53. 病院受診付き添い
- 54. 病状等説明

◆指導・教育

- 55. 家族連絡・相談・指導
- 56. 入退所指導
- 57. 職員指導
- 58. 実習生指導

◆その他

具体的に：（ ）

問 2 3 現在の業務で不安を感じるものがありますか

- 1. はい
- 2. いいえ



「はい」と回答された方

問 2 4 下記の業務で不安と感じるもの全てに○をつけて下さい

- 1. 看護技術
- 2. フィジカルアセスメント
- 3. 病状観察・アセスメント
- 4. 急変時の対応
- 5. 病院受診付き添い
- 6. 医療機器の操作
- 7. 医療行為（具体的に： ）
- 8. 看取り
- 9. 傷みのケア
- 10. 調剤
- 11. 医療安全
- 12. 感染対策
- 13. 認知症看護
- 14. 送迎
- 15. リハビリテーション
- 16. レク企画・実施
- 17. 医師との連携
- 18. 家族への対応
- 19. 多職種連携
- 20. 介護職への指導
- 21. 看護実習指導
- 22. 介護実習指導
- 23. チームカンファレンス
- 24. サービス担当者会議
- 25. ケアプラン立案
- 26. 職場内の人間関係
- 27. 看護職員配置数
- 28. 夜勤
- 29. オンコール待機
- 30. 労働環境（具体的に： ）
- 31. その他（具体的に： ）

問 2 5 あなたの施設の入居者の死亡および看取りの状況について

- 1. 平成 28 年 4 月から 12 月の期間に施設内で死亡した入所者は
 - ①いた （ ）人
 - ②いない

◇研修環境についてお尋ねします。

問26 あなたの施設の職員教育体制は

1. 整っている
2. 整っていない

問27 あなたの施設の業務基準や手順、マニュアルなどは

1. 整備されている
2. 整備されていない

問28 平成28年4月から29年3月までの一年間で、看護職員対象の施設外研修に参加したことがありますか

1. ある (参加した研修名をご記入ください)

2. ない 参加できなかった理由で該当するもの全てに○をつけて下さい

- | | |
|-----------------|----------------------|
| ①仕事が忙しく研修参加できない | ②看護職の人数が少なく研修に参加できない |
| ③興味がある研修がない | ④施設看護師対象の研修がない |
| ⑤研修の情報が入らない | ⑥上司の理解がない |
| ⑦研修開催場所が遠い | ⑧研修参加費が高い |
| ⑨研修に参加させてもらえない | ⑩施設内研修が充実している |
| ⑪その他 () | |

3. あなたが受けたい研修テーマについて、教えてください

()

質問は以上です

ご協力ありがとうございました

このデータは、高齢者ケア施設に勤務されている看護職員の皆様のお役にたてるようしっかりと活用させていただきます。

「平成 29 年度 高齢者ケア施設で働く看護職の実態調査」報告書

平成 30 年 3 月 発行

発 行 者

公益社団法人 岡山県看護協会

〒700-0805 岡山市北区兵団 4 番 31 号

T E L : (086) 226-3638

F A X : (086) 226-1157

ホームページ : <http://www.nurse.okayama.okayama.jp/>

調査担当者 岡山県看護協会 看護師職能委員

谷村怜子	社会医療法人高見徳風会
岡本久美	川崎医科大学総合医療センター
梶谷美智代	金田病院
住宅恵子	岡山市立市民病院
武田利恵	岡山赤十字病院
應治洋子	介護老人保健施設みくに
金木こと江	サンホームつやま
田頭寛子	特別養護老人ホーム若宮園
中野益美	介護老人保健施設和光園
土師エリ	川崎医科大学付属病院
平井淑子	みつ訪問看護ステーション看護協会
守谷智江	玉野総合医療専門学校